

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 6 月 10 日現在

機関番号：25403

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：平成 21 年度～平成 24 年度

課題番号：21401018

研究課題名（和文）ヒマラヤを越え河西回廊に伝わった密教的造形と表現、
その表象芸術に関する研究研究課題名（英文）A Study of the Arts and Performing Arts depicted in Tibetan Buddhism
Symbols and Representations Acrossing from Himalaya to Hexi Corridor
at Gansu West border of China.研究代表者：服部 等作 (Hattori Tosaku)
広島市立大学・芸術学部・研究員

研究者番号：50218509

研究成果の概要（和文）：

本研究は、中国甘粛省の敦煌から蘭州に通じる河西回廊とよぶ地域を対象に、ヒマラヤ山脈を越え河西回廊で受容されたチベット密教の造形・表現の基層的な内容を研究する目的である。

いままで河西回廊の研究指向は、漢族の視点にたつシルクロードの文化に偏りがあった。本研究は、河西回廊が西方の他民族と漢族進出で曖昧な国境と文化地帯という視点から現地調査を通じて基層的な密教芸術の内容を明示する。

河西回廊の顕著な文化的変容は、まず騎馬民族国家の五胡十六国の樹立で騎馬民族の文化流入がある。その文化的な影響は、敦煌(瓜州)から蘭州の河西回廊が、中原へと寺院の信仰拠点と巡礼路が整備されるなかで、石窟寺院の壁画や塑像の仏像、弥勒仏が交脚弥勒座像(例・敦煌莫高窟 275 洞)や菩薩思惟倚座像(例・柄霊寺 169 洞)の表現がある。後に吐蕃古道沿い同仁県(レゴン地方)から蘭州にいたるアムド東端のラブラン寺、柄霊寺上寺など信仰拠点の寺院と巡礼路が今日まで中央チベットの基層文化を断続的に引き継いできた。

今日の密教文化の現状は、漢族の社会進出にともなう都市化、道路網の発達にともなう近代化によりチベットの密教芸術の伝統が続々と変容と衰退の現状がある。その典型的な内容は、信仰の拠点寺院の衰退、巡礼路の変容、ならびに面的にひろがる文化圏でチベットの伝統の衰退がある一方で、漢族の文化の浸透がある。特に芸術では、チベット密教の基層をなす造形(壁画、彫刻、工芸美術)と表現(法舞、行道、モンラムの諸行事、法舞)が変容し、伝統表現を支える人的資源(技能、伝統職人、秘伝)が文化大革命以後に復興の兆しがあるが、伝統技術(製作材料、顔料、品質)が工業製品になり芸術が近代的模倣と化し、文化の継承と修復などの問題が顕在化している。(685 字)

研究成果の概要（英文）：

The purpose of this study refer to Arts and Crafts, and Performing Arts in the symbolism of the Tibetan esoteric Buddhism at the Cathay corridor, Gansu of China.

However, the studies about the Conventional of these ware tending as silk road culture and Chinese points of view till now. This study consider the Cathay corridor not only vague borderland but also the cultural crossroad of Western and Tibetan world.

The contents obtained from this study are as follows. At first, as for the

remarkable cultural transformation established nomads culture flowed by the Sixteen dynasties (AD. 304~439). As for the cultural influences by the nomadic tribe, In their faith in Buddhism, Buddha and/or Maitreya Buddha images that posture showed European sitting posture, crossleg, and Īatitāsana besides traditional Īatitāsana on the throne. These images presented in wall painting and statues at the cave temples Dunhuang no.275 and BianLing Si Grottoes no.169, where along paths of pilgrims, the way from Dunhuang and Amdo to Lanzhou, and Xian.

As for this study shows a evidence that ancient Tibet so called Tufan route from Lhasa to the Kumbum, near Xian, Qinghai, had been connecting to the Lanzhou, however, there was another route to Lanzhou along Kham (East Tibet, now part of Sichuan province), Lebkong, Amdo (East Tibet, now Qinghai) and to south Lanzhou via Labrang and Bian Ling Si monastery. Cathay corridor had important functions as the crossroad of pilgrimage to bind the base of the faith together. As for this study what became clear, the traditions are going into a steady decline now by Chinese into the corridor, urbanization, motorization, the modernization to the traditional Tibetan faiths.

The decline contents appear typically in the decline of the base monastery. the decline of the paths of pilgrims and connection of monestries and cultural area of traditional Tibetan are keeping but changing to the Chinese.

In addition, Wall painting, sculptures, crafts, architecture in the arts, and expression (Cham, religious parade, faith events, etc.,) are changing. There are signs of the revival in cultural resources (skill, traditional craftsman,) since cultural revolution, but problems such as the succession and the restoration of declining the culture rapidly. To changing a tradition of the techniques, product materials, and the qualities by the modern materials and techniques changed. The arts turn to the modern copy.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	4,000,000	1,200,000	5,200,000
2010年度	3,300,000	990,000	4,290,000
2011年度	3,000,000	900,000	3,900,000
2012年度	2,400,000	720,000	3,120,000
年度	—	—	—
総計	12,700,000	3,810,000	16,510,000

研究分野：人文学 A

科研費の分科・細目：芸術学・芸術史・芸術一般

キーワード：チベット、河西回廊、密教美術、工芸美術、シルクロード、チベット仏教、ヒマラヤ、吐蕃古道、青海省、甘肅省、

1. 研究開始当初の背景

本研究の背景は、中国が国外的に海洋進出

と領土問題、国内的に社会格差、民族、環境など問題を抱えている。本研究は、顕在化する

るチベット問題で世界的に独自の精神文化を有するチベット人の文化的変容と顕著な衰退傾向に対し基層的な造形と表現文化の解明を通じ学術的貢献の必要がある。この背景について従来の河西回廊の研究視座は、敦煌から蘭州に至る中国(漢族)側から中原、内モンゴルのシルクロード/西域の研究視座に偏っていた。ここに密教文化圏の視座から河西回廊沿いに展開された密教の基層文化の解明が学術貢献の糸口と考え本着想に至った。

2. 研究の目的:

研究の目的は、中国側甘粛省の敦煌から蘭州に通じる河西回廊の研究指向がシルクロードの(漢族)文化に偏り、さらに現在、西部大開発事業と漢族進出によりチベット文化の変容・衰退が進行中である点に対し、河西回廊の密教的造形(壁画、彫刻、工芸美術)と表現(法舞、行道、モンラムの諸行事、法舞)の内容を調査し、その歴史的、基層的な文化の基層内容を明示にある。特に行者、洞窟、寺院という信仰の拠点とその巡礼路を調査し密教芸術の文化圏を形成する造形と表現を対象とした。

3. 研究の方法

本研究は、河西回廊にある信仰の拠点(聖地、寺院、行場)から吐蕃古道という巡礼路にそった密教の造形・表現の基層をなす文化的内容を解明する現地調査から解明する。

調査方法は、1)河西回廊の調査、2)河西回廊への流入調査:①甘粛省西端(新疆ウイグル自治区庫車県)、敦煌(旧瓜州)、②吐蕃古道沿い調査・青海省—甘粛省蘭州流入調査(青海省同仁県—甘粛省夏河県、永靖県—蘭州)、3)ヒマラヤ山脈南麓の密教寺院調査、区分し、インド側のヒマラヤ密教文化圏から中国側の河西回廊に至る信仰と美術の拠点、芸能祭祀表現の拠点を結ぶ巡礼・交易路、並びに文化圏の解明にある。

現地の調査項目は、1)旧吐蕃古道・ラサ—青海省同仁県—甘粛省蘭州に至る河西回廊東部域が古くより唐と吐蕃間の国境紛争地帯と同時に交流地帯であること、2)チベット密教の基層的な信仰の拠点(吐蕃時代の行場、寺院、石窟寺院)—線(巡礼路)—面的(文化

圏)に有形で静態的な造形(壁画、彫刻、工芸美術)と無形で動態的性格を帯びた表現(法舞、行道、モンラムの諸行事、法舞)内容を、文化大革命時代をへて現在に至る内容を、以下の研究期間中に調査をすすめた。

平成21年度調査:1)河西回廊沿い(項目1))、および2)①甘粛省・敦煌敦莫高窟北区、榆林窟、東西千仏洞、五個廟石窟—陝西省仏跡調査(項目2)①)、

平成22年度調査:インド、ヒマルチャルプラディッシュ州スピティ渓谷の寺院調査(項目3))、および2)新疆ウイグル自治区トルファン—庫車県調査(項目2)①)、

23年度:①青海省黄南蔵族自治州同仁県から海東地区の吐蕃古道終端の夏調査(項目2)②—青海省互助土族自治州、大通回族土族自治县、尖扎県、循化県の寺院から甘粛省夏河県拉卜楞寺)、及び冬調査(項目2)②青海省黄南蔵族自治州同仁県密教寺院モンラム調査)。

平成24年度調査:青海省黄南蔵族自治州同仁県—甘粛省臨夏回族自治州、夏河県、永靖県の寺院、モンラム内容調査(項目2)②)。

4. 研究成果

本研究の成果は、ヒマラヤを超え河西回廊に流入したインド、中央アジアの文化の基層性、および吐蕃古道が担った重層的な役割を確認できた。従来の研究は、敦煌を中核に西域とのシルクロード交易に偏重した文化観に基づいていたが、本研究により河西回廊に通じる吐蕃古道が青海省同仁県から甘粛省夏河県、永靖県沿いの密教寺院と信仰の拠点が蘭州へ巡礼と交易路の線となり、面的な「場」が結ばれて、最終的にヒマラヤから頻繁かつ継続的、重層的に影響する文化圏を形成し文化の継続性、多様性ある歴史事実が確認できた。さらにチベットの文化的変容傾向が明らかにできた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計3件)

- ① 服部等作、「遊牧民族の座法が五涼の仏像に及ぼした影響に関する研究」—ヒマラヤ

を越え河西回廊に伝わった密教的造形と表現に関する研究、芸術学 17、広島市立大学、2012

- ② 服部等作、「胡牀の形態とその座法について(1)、芸術学 17、広島市立大学、2012
 - ③ 服部等作、玉座の「カタ」と「カタチ」、早稲田大学人間科学学術院、2011、1
〔学会発表〕(計8件)
 - ① 服部等作:『立像と横臥像からなる饗宴と化粧皿の図像』、「異界と常世・幽世の明暗」比較神話シンポジウム、査読無 2112、12、26、513 -327、千葉県文化会館、
 - ② 服部等作:『西北インドの化粧皿にみる饗宴の図像』「神話・象徴・図像 II」、査読無、2012、77-90、井本栄一、服部等作、他、篠田知和基(編)
 - ③ 服部等作:『天空の世界遺産都市・ラサにいたる神々の造形と表現—ヒマラヤの文化圏の十字路』、九州国立博物館、2009年6.6.
 - ④ 中野照男、「運用光学手法以蛍光X線分析検証壁画徒盧那像」、敦煌絲綢之路国際学術研討会議、2113年2月、神戸大学大学院人文学研究科
 - ⑤ 中野照男、壁画に描かれた尊像と芸能に使われた仮頭の表象の比較、『アジアの無形文化における仮頭の研究—仮面との比較から』(平成19~22年度科学研究費補助金基盤研究(B・海外学術調査、課題番号19401015、研究代表者・細井尚子)、査読無、平成22年3月、31-56、
 - ⑥ マーク・バーナード、赤尾栄慶、中野照男、鼎談 敦煌文書とアーカイブ、『第32回文化財の保存及び修復に関する国際研究集会報告書「オリジナルの行方—文化財アーカイブ構築のために」』、平成22.3、査読無、282-294、
 - ⑦ 奥山直司、Pilgrimage to the Crystal Mountain in Dolpo by the Japanese Monk, Kawaguchi Ekai Esoteric Buddhist Studies: Identity in Diversity. Koyasan University. 2008年3、207-222.
 - ⑧ 奥山直司、The Tibet Fever among Japanese Buddhists of the Meiji Era. In Monica Esposito ed., Images of Tibet in the 19th and 20th Centuries. Vol. I, Paris: EFEO, 査読有 2009、. 203-222.
- 〔図書〕(計12件)
- ① 服部等作(単著):『大谷光瑞と二楽荘—その建築に影響した英国の邸宅文化とインドの僧院の景観—大谷光瑞とアジア』、2010、pp. 399-423、全580p 勉誠出版.
 - ② 服部等作、「スバシ出土舍利容器と信仰の

姿—大谷探検隊の将来品と汎アジア世界の宗教—大谷光瑞、「国家の前途を考える」、柴田幹夫(編)、アジア遊学、156号、2012.8、pp. 139-146、勉誠出版

- ③ 服部等作、篠田知和基(編)、『天上と天下の玉座—ウラルトゥと新アッシリア帝国の玉座』、天空の神話—風と鳥と星、635-654、楽浪書院 2009年4月、
- ④ 中野照男、東京国立博物館保管壁画仏坐像を通して見たクムトラ石窟第45窟壁画の諸問題、『庫木吐喇千仏洞保護修復工程報告』、2011年11月、文物出版社(北京)、pp. 372-386
- ⑤ 中野照男、敦煌文書の真贋をめぐる覚書、『日本美術史の杜 村重寧先生星山晋也先生古稀記念論文集』平成20年9. pp. 460-472、竹林舎
- ⑥ 奥山直司、「チベットの探検—新アジア仏教史09チベット、須弥山の仏教世界」、2010年4月、pp. 262-265、佼成出版社、
- ⑦ 奥山直司、下西忠・山口幸照・小笠原正仁(編)、「日本のチベット考—『仏教と差別』」、2010年6月、pp. 122-138. 明石書店、
- ⑧ 奥山直司、奥宮清人編「青海地方とチベット仏教『生老病死のエコロジー—ヒマラヤ・チベットに生きる—』」2011年3月、pp. 199-203. 昭和堂、
- ⑨ 奥山直司、「南方熊楠と十九世紀ヨーロッパのインド学」、田村義也・松居竜五(編)『南方熊楠とアジア』勉誠出版、2011年8月、pp. 135-144、
- ⑩ 奥山直司、「青木文教と河口慧海—『チベット大蔵経問題』—『大谷光瑞と国際政治社会—チベット、探検隊、辛亥革命』」、2012
- ⑪ 奥山直司、『高山寺蔵南方熊楠書翰—土宜法龍宛1893-1911』2010年3月、共編、藤原書店、
- ⑫ 奥山直司、『宗教の事典』朝倉書店、共編、2012年

〔産業財産権〕

- 出願状況(計0件)
名称:、
発明者:、
権利者:、

種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：
○取得状況（計0件）
名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕 ホームページ、リポジトリ等

<http://www.hiroshima-cu.ac.jp/~hattori/>
<http://harp.lib.hiroshima-u.ac.jp/bitstream/harp/11464/1/art17-06.pdf>
<http://harp.lib.hiroshima-u.ac.jp/handle/harp/11471>
<http://dspace.wul.waseda.ac.jp/dspace/handle/2065/36536>

<http://harp.lib.hiroshima-u.ac.jp/handle/harp/5054>
<http://harp.lib.hiroshima-u.ac.jp/handle/harp/5055>
<http://harp.lib.hiroshima-u.ac.jp/handle/harp/1010>

6. 研究組織

(1) 研究代表者
服部等作 (66) 広島市立大学・芸術学部・研究員、研究者番号：50218509

(2) 研究分担者
中野照男 (61) 東京文化財研究所・研究員、研究者番号：20124191

奥山直司 (56) 高野山大学・文学部・教授、研究者番号：50177193

(3) 連携研究者
なし